

平成 29 年度 第 4 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

岡田公治 井沢澄雄

4th Activity Report, August 2017: Committee of Study Groups

Koji Okada Sumio Izawa

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 29 年 8 月 1 日現在の各研究会活動の予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) メンタルヘルス研究会

(主査：前田英行 日立公共システム)

月 1 回の定例会と年 1 回のワークショップを中心に活動しています。



6/21 の様子

<6 月の活動実績>

6 月 21 日：定例会開催

① 2017 年ワークショップの検討 (前編)

本年のワークショップについて、チラシ原案をもとに詳細な計画を議論しました。今回は、ライトニングトークスという講演時間 5 分の「稲妻語り」を企画中です。

② 書籍を題材にしたメンタル不調予防の議論

「単純な脳、複雑な「私」(池谷裕二 著)を題材に「ストレス」と「意識・無意識」「体の異変」について議論しました。

私たち人間には、危険を回避する無意識の防衛本能があり、メンタル疾患に陥らないようにストレスを回避する行動を取ろうとします。しかし理性が勝ってしまうと、回避してはいけないという意識が生まれ防衛本能を抑え込んでしまうようになります。

自分が正しいと意識しているように行動する

ことは実際には正しくなく、無意識こそが正しい判断をしているかもしれません。

また、無意識に感じている危機感は、ちょっとした体の異変としても表れてきます。

無意識や体の異変に耳を傾けることで、メンタル疾患の早期発見が可能になるのではないのでしょうか。

<7 月の活動実績>

7 月 19 日：定例会開催

① 2017 年ワークショップの検討 (後編)

ご登壇予定の方々と当日のテーマや段取りについて打ち合わせをしました。

「人の持つ魅力を最大限に引き出すことによる人づくりとはどんなものか?」「人が人であることによる性質・行動とは何か?」メンタルヘルスに通じる興味深いテーマとなりそうです。

ワークショップは来る 11 月 22 日、岡山にて開催予定。詳細は別途ご案内します。ぜひご参加を!

<今後の活動予定>

9 月 20 日：定例会開催予定

10 月 18 日：定例会開催予定

11 月 15 日：定例会開催予定

11 月 22 日：ワークショップ開催予定 (岡山)

12 月 20 日：定例会開催予定

(8 月はお休みです)

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(2) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

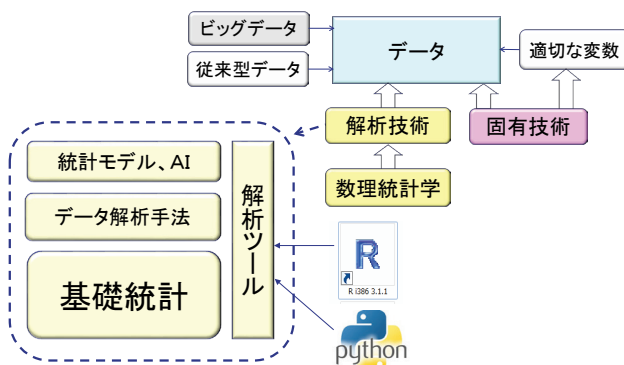
プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

当研究会の学習・研究テーマとしては以下の 6

つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析
- ⑤ 人工知能と機械学習
- ⑥ Python の学習と活用

上記のトピックの中でも、現時点では、③～⑥に力を入れています。



この図はデータ解析の内容を表現したのですが、統計学に基づく解析手法も活用し、ビジネスの状況に即した活用を行うのがデータ解析です。

各種のデータ解析手法に基づき、統計モデルや人工知能（AI）が実現されます。その分析を支える言語が、R や Python という関係になります。

プロジェクトの管理に人工知能と機械学習の手法を適用できる可能性がありますので、当研究会では、今後期待される領域と考えています。

<今後の活動予定>

- 9 月 5 日：定例会開催予定
- 10 月 17 日：定例会開催予定
- 11 月 17 日：定例会開催予定
- 12 月 12 日：定例会開催予定

会合は 1 回／月（原則として第 2 火曜日 18:30~20:30）開催しています。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。

当研究会では現時点までの活動で、Capers Jones 氏の見積のすべて、Excel 統計、コスト評価知識体系（CEBoK）、要求の仕様化技術、R 言語による分析事例、データマイニング手法、人工知能と機械学習のコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

【詳細問合せ先】 kajiyama@yhat.co.jp

(3) PM 人材育成研究会

（主査：池田 修一 ポジティブ・ラーニング）

これまでステークホルダーについて継続して議論を行っており、前回（2017/5/26）はプロジェクトにかかわるステークホルダーの意識について、「個人の価値観」について検討を行いました。

特に今回（2017/6/30）は、参加者に関連したプロジェクトを事例としてあげてもらい、個人の価値観について議論を行いました。

この事例では、社内プロジェクトで海外の拠点へシステムを展開する際にインフラのパフォーマンスが遅くなり、それを改善することを目的としていました。海外のインフラを改善するために、日本のベンダー経由でインフラを構築することになりましたが、その計画・進捗を管理できず、スケジュールが決定しませんでした。また、スケジュールが明確になったタイミングで納期を大幅に遅延することが発覚しました。

この原因について研究会で検討したところ、

- ・ 海外拠点、および関係者とのコミュニケーションがうまく行かなかった
- ・ 課題に対する方策について、ステークホルダーとの合意に時間がかかった

ことがあげられました。

特にこの事例では、海外のリージョンごとに業務側と情報システム側の担当がおり、また地域ごとにベンダーを抱えるといった複雑なステークホルダー環境でした。

結局はステークホルダーの特定とコミュニケーションがうまくいかなかったことにつきますが、如何に各ステークホルダーが各役割を設定され、また認識していたかが論点になりました。また、各ステークホルダーが体制、契約、方法論を準備し、全体としてどのように整合性をはかったかなどのガバナンスについての議論もありました。

このような状況の中で、PM がより広くステークホルダーの認識し、特定し、マネジメントを行っていく必要があります。そのためには事前に様々なプロジェクトの状況や特徴を掴んでおくことが必要であることを再確認しました。全てのステークホルダーをマネジメントすることは難しいので、如何にプロジェクト全体でマネジメントするかについても考慮する必要があります。この方法論についての議論もしていきたいと思っています。

次回も継続してステークホルダーについて議論します。特に「パートナー」についての事例を入れた検討をしていく予定です。

＜今後の活動予定＞

9月29日：定例会開催予定

10月30日：定例会開催予定

11月30日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmcom2016@freeml.com

(4) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査：横山 真一郎 東京都市大学)

QFD (Quality Function Deployment：品質機能展開) の考え方は品質管理だけではなく様々な活動にも援用することができます。プロジェクトを円滑に進める際にも、情報の共有や知識の蓄積のために QFD の活用は有効です。当研究会では、毎回、研究会メンバーから提示される実際の現場における課題について QFD の応用という観点から議論を重ねています。

最近では、QFD を手法の開発のみならず、プロジェクトにおける情報の定量化やシステム設計、さらにリスク分析など、様々なテーマに積極的に取り組んでいます。研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会メンバーに奨励しています。多くの PM 学会の会員の皆様のご参加をお待ちしています。

＜9月以降の予定＞

9月22日：定例会開催予定

10月20日：定例会開催予定

11月10日：定例会開催予定

12月15日：定例会開催予定

(5) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会

(主査：中村 太一 国立情報学研究所)

現在は、暫定的に隔月の例会開催になっており、7月20日に第42回の例会が開催される予定となっておりました。しかし、当日主催者の不慮の事故により直前にキャンセルとなりました。次回は、9月21日の開催を予定しています。

＜今後の活動予定＞

9月21日：定例会開催予定

(6) リスク・マネジメント研究会

(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行っており、活動成果を研究発表大会や ProMAC で発表してきました。

本年度は、新しく、テキスト分析を用いたリスクモデルを研究テーマに、新体制での研究活動を準備中です。

＜今後の活動予定＞

準備が整い次第、新メンバーの募集も含め、ご案内いたします。

2. 研究委員会の活動状況

研究委員会では、新たな研究会の立上げや既存の研究会の更なる活性化に向けて議論を進めています。その一環として、研究会活動の魅力、研究会に参加することで得られているメリット等を、研究会メンバーの意見を元に整理したところ、以下の4点に集約されました。

- ①組織の枠を超え、特定テーマに関心のある者同士が交流でき、より深掘りした議論ができる。
その結果、高度かつ広範な気づきが得られる。
- ②他の組織の方との議論を通じ、自組織の取組みを（各組織における情報セキュリティルールを遵守することを前提に、暗黙的に）ベンチマーキングできる。
- ③メンバー同士が協力して論文やガイドライン等を執筆することで、議論した内容を広く提案できる。
- ④個人や自組織では招くことが難しい著名な方であっても、プロジェクトマネジメント学会の研究会として招くことができ、深い情報や最新情報を得ることができる。

今後更に、これらの魅力・参加メリットに結び付くような活動を、各研究会が企画、推進し易くする仕組みづくりを検討していきたいと思います。

3. その他

第39回 PM トワイライトサロンを10月25日に東京（八重洲）にて「ソフトウェア開発プロジェクトにおける工数見積りの妥当性評価手法」をテーマに開催予定です。詳細は別途ご案内しますので、奮ってご参加下さい。

また、活動中の研究会への参加希望や、新規研究会の提案に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

研究委員会委員長	岡田 公治
研究委員会副委員長	井沢 澄雄
研究委員会担当幹事	高田 淳司